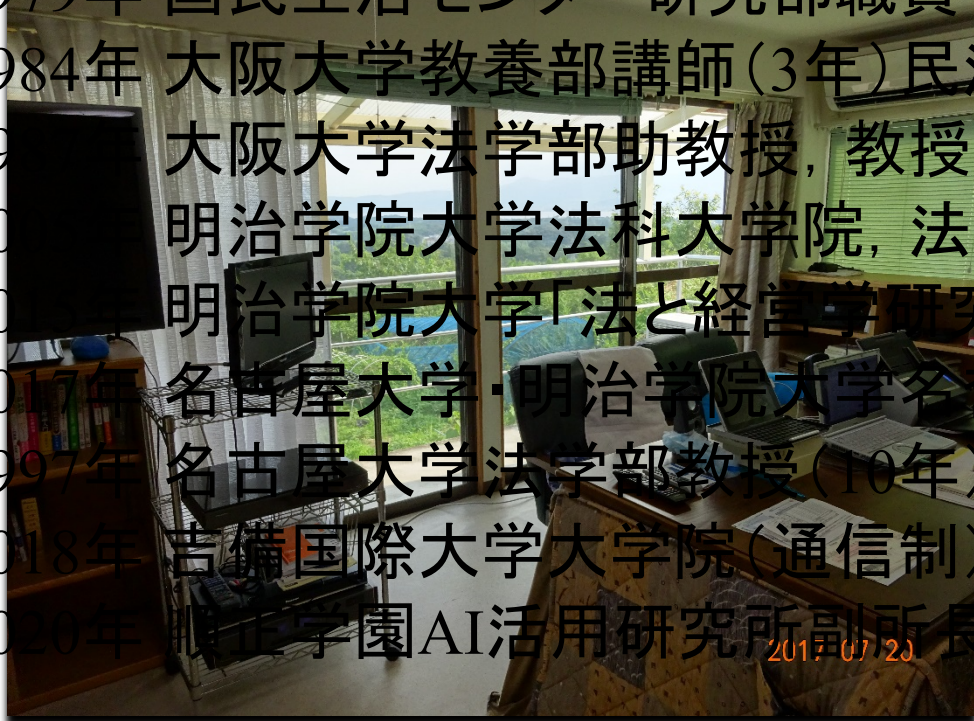


契約法総論 講義資料

明治学院大学名誉教授
加賀山 茂

加賀山 茂の自己紹介・経歴

- 1948年 愛媛県宇和島生まれ(現在73歳)
- 1979年 大阪大学法学部, 大学院博士課程単位取得退学(31歳)
- 1979年 国民生活センター研究部職員(4年半)消費者問題の実務
- 1984年 大阪大学教養部講師(3年)民法, 法律人工知能
- 1987年 大阪大学法学部助教授, 教授(10年)民法, 法律人工知能
- 2000年 明治学院大学法科大学院, 法学部(11年)民法, 消費者法
- 2002年 明治学院大学「法と経営学」研究科」委員長(2年)退職
- 2007年 名古屋大学・明治学院大学名誉教授
- 1997年 名古屋大学法学部教授(10年)民法, アジア法整備支援
- 2018年 吉備国際大学大学院(通信制)知的財産学研究科特任教授
- 2020年 川崎学園AI活用研究所副所長



加賀山 茂のホームページ

← → ↺ 🏠 | 🛡️ cyberlawschool.jp/kagayama/index.html | 80% | ... 📄 ⚙️ 🌐 📧 ☰

[Top] ^

I. [自己紹介 \(詳細\)](#), [プロフィール \(簡略\)](#)
II. [トピックス](#)

1. 「[一般社団法人 法と経営学会](#)」のホームページが完成 (入会手続きも可能) (2020年10月9日)
2. 日出ロータリークラブ次期会長就任受諾の挨拶 ([PDF](#)) (2019年12月10日)
3. 日本私法学会・シンポジウム「不動産所有権の今日的課題」(2019年10月5日)での各パネリストに対する予定質問 ([前日まで \(Ver.1\)](#), [当日 \(Ver.2\)](#), 『私法』原稿 (Ver.3))
4. 「2030年の世界－ジャック・アタリの未来予測を参考にしてこれから10年で何をすべきかを考える－」日出ロータリークラブでの卓話 (2019年10月1日) ([PDF](#)) [要約版 \(PDF\)](#)
5. 「わが国の文化・経済の発展を阻害する『同一性保持権』(著作権法第20条)の制限解釈について－法学分野の著作における創作性の厳格基準の必要性－」([Ver.4](#))『法と経営研究』〔第3号〕信山社 (2020/1) 35-52頁 (予定)
6. 「[修士論文の書き方 \(Ver.2\)](#)」([PDF](#)) 2019年9月1日吉備国際大学大学院 (通信制) 知的財産学研究所スクーリングでの講義 ([XML](#))
7. 「[著作権法革命－著作者第一主義から著作利用者第一主義への転換 \(Ver.3\)](#)」
8. 「[巻頭言・XMLによる情報整理の薦め](#)」
Busines Law Journal (2019/10) 11頁



仮想法科大学院

<http://cyberlawschool.jp/kagayama/>

2007年9月3日開設

更新：2021年4月7日 / [HP更新記録](#), [教育・研究・生活日誌](#) (2021, 2020, 2019, 2018, 2017, 2016)
(このホームページの「売り」がこの日誌です。特色は、例外なしに毎日更新されているところです。他人の個人情報を除き、私の頭の中を表現した私のポートフォリオです。ご覧いただけると幸いです。)

このサイト<<http://cyberlawschool.jp/kagayama/>>の作成者は、**加賀山 茂**です。
[従来の私のホームページ](#)には、目次がなかったため、左の欄に目次を付けて読みやすくしています。
このサイトの内容 (リンク集を除く) について、私は複製権などの**著作者財産権**を放棄しています (Copyleft)。
法律にも判決にも、著作権はありません (著作権法第13条)。誰でも自由に利用できる私たちの**公共財**です。
公共財に依拠して作成した**私の論文**も、誰でも自由に利用できるように**パブリック・ドメイン**に置いています。
したがって、このサイトにリンクを張ったり、内容をコピーをしたりすることは、許可なく自由にできます。
ただし、わが国の著作権法においては、**著作者人格権**を放棄することはできません。
このサイトから複製・引用する場合には、著作権者の表示をお願いします。
(なお、[会員制のホームページ](#)は、現在のところ、事情により更新を停止しております。)

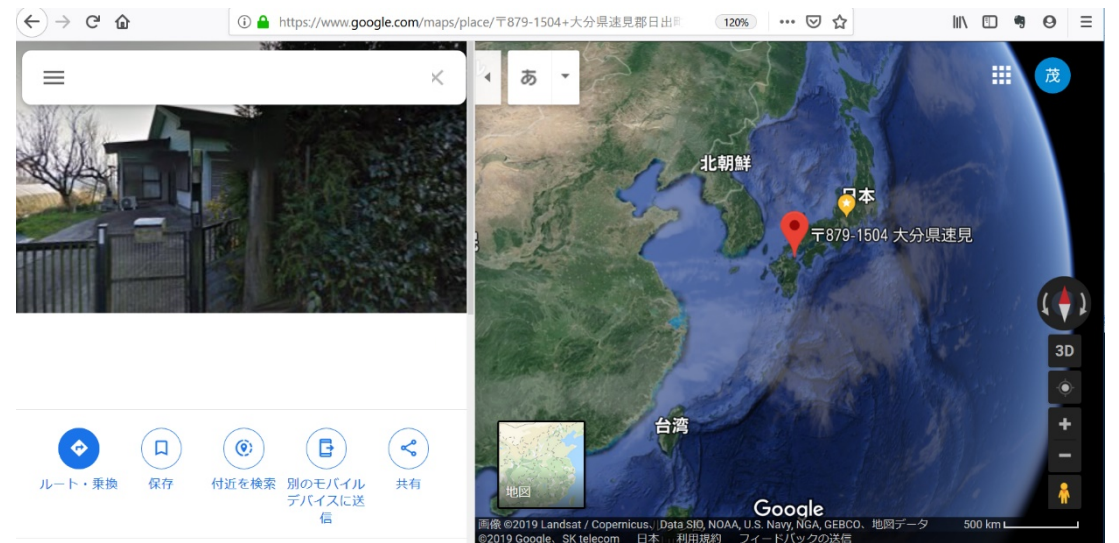
あなたは、第 **0000038507** 人目の閲覧者です。

法学(民法)に特有の体系的思考とは何か？ 民法のGoogle Mapを作る

住宅地図



世界地図



民法の体系をXMLで表現する(1/5)

```
<?xml version="1.0"?>  
+ <CivilCodeOfJapan>
```

```
<?xml version="1.0"?>  
- <CivilCodeOfJapan>  
  + <book1 title="総則">  
  + <book2 title="物権">  
  + <book3 title="債権">  
  + <book4 title="親族">  
  + <book5 title="相続">  
</CivilCodeOfJapan>
```

```
<?xml version="1.0"?>  
- <CivilCodeOfJapan>  
  - <book1 title="総則">  
    + <chapter1 title="通則" mytitle="[民法通則]">  
    + <mychapter2 mytitle="[私権の主体]">  
    + <mychapter3 mytitle="[私権の客体]">  
    + <mychapter4 mytitle="[私権の変動]">  
  </book1>  
  + <book2 title="物権">  
  + <book3 title="債権">  
  + <book4 title="親族">  
  + <book5 title="相続">  
</CivilCodeOfJapan>
```

展開

民法の体系をXMLで表現する(2/5)

```
<?xml version="1.0"?>
- <CivilCodeOfJapan>
  - <book1 title="総則">
    + <chapter1 title="通則" mytitle="[民法通則]">
    + <mychapter2 mytitle="[私権の主体]">
    + <mychapter3 mytitle="[私権の客体]">
    + <mychapter4 mytitle="[私権の変動]">
  </book1>
  + <book2 title="物権">
  + <book3 title="債権">
  + <book4 title="親族">
  + <book5 title="相続">
</CivilCodeOfJapan>
```

更に展開

```
<?xml version="1.0"?>
- <CivilCodeOfJapan>
  - <book1 title="総則">
    - <chapter1 title="通則" mytitle="[民法通則]">
      + <article1 mycaption="[私権の制限]" caption="基本原則">
      + <article2 mycaption="[私権の目的]" caption="解釈の基準">
    </chapter1>
    + <mychapter2 mytitle="[私権の主体]">
    + <mychapter3 mytitle="[私権の客体]">
    + <mychapter4 mytitle="[私権の変動]">
  </book1>
  + <book2 title="物権">
  + <book3 title="債権">
  + <book4 title="親族">
  + <book5 title="相続">
</CivilCodeOfJapan>
```

民法の体系をXMLで表現する(3/5)

```
<?xml version="1.0"?>
- <CivilCodeOfJapan>
  - <book1 title="総則">
    - <chapter1 title="通則" mytitle="[民法通則]">
      - <article1 mycaption="[私権の制限]" caption="基本原則">
        - <paragraph1 myname="[公共の福祉適合性]">
          <text>①私権は、公共の福祉に適合しなければならない。</text>
        </paragraph1>
        - <paragraph2 myname="[信義則の遵守]">
          <text>②権利の行使及び義務の履行は、信義に従い誠実に行わなければならない。</text>
        </paragraph2>
        - <paragraph3 myname="[権利濫用の禁止]">
          <text>③権利の濫用は、これを許さない。</text>
        </paragraph3>
      </article1>
      - <article2 mycaption="[私権の目的]" caption="解釈の基準">
        <text>この法律は、個人の尊厳と両性の本質的平等を旨として、解釈しなければならない。</text>
      </article2>
    </chapter1>
    + <mychapter2 mytitle="[私権の主体]">
    + <mychapter3 mytitle="[私権の客体]">
    + <mychapter4 mytitle="[私権の変動]">
  </book1>
  + <book2 title="物権">
  + <book3 title="債権">
  + <book4 title="親族">
  + <book5 title="相続">
</CivilCodeOfJapan>
```

用が済めば折り畳める

```
<?xml version="1.0"?>
- <CivilCodeOfJapan>
  - <book1 title="総則">
    + <chapter1 title="通則" mytitle="[民法通則]">
    - <mychapter2 mytitle="[私権の主体]">
      + <chapter2 title="人" mytitle="[自然人]">
      + <chapter3 title="法人">
    </mychapter2>
    - <mychapter3 mytitle="[私権の客体]">
      + <chapter4 title="物">
    </mychapter3>
    - <mychapter4 mytitle="[私権の変動]">
      - <mysection1 mytitle="[意思表示による私権の変動]">
        + <chapter5 title="法律行為">
      </mysection1>
      - <mysection2 mytitle="[時間経過による私権の変動]">
        + <chapter6 title="期間の計算">
        + <chapter7 title="時効">
      </mysection2>
    </mychapter4>
  </book1>
  + <book2 title="物権">
  + <book3 title="債権">
  + <book4 title="親族">
  + <book5 title="相続">
</CivilCodeOfJapan>
```

必要に応じて展開できる。

民法の体系をXMLで表現する(4/5)

```
- <chapter3 title="法人">
+ <article33 caption="(法人の成立等)">
+ <article34 caption="法人の能力">
+ <article35 caption="(外国法人)">
+ <article36 caption="(登記)">
+ <article37 caption="(外国法人の登記)">
+ <article38 caption="削除">
+ <article39 caption="削除">
+ <article40 caption="削除">
+ <article41 caption="削除">
+ <article42 caption="削除">
+ <article43 caption="削除">
+ <article44 caption="削除">
+ <article45 caption="削除">
+ <article46 caption="削除">
+ <article47 caption="削除">
+ <article48 caption="削除">
+ <article49 caption="削除">
+ <article50 caption="削除">
+ <article51 caption="削除">
+ <article52 caption="削除">
+ <article53 caption="削除">
+ <article54 caption="削除">
+ <article55 caption="削除">
+ <article56 caption="削除">
+ <article57 caption="削除">
+ <article58 caption="削除">
+ <article59 caption="削除">
+ <article60 caption="削除">
+ <article61 caption="削除">
```

```
- <chapter3 title="法人">
+ <article33 caption="(法人の成立等)">
+ <article34 caption="法人の能力">
+ <article35 caption="(外国法人)">
+ <article36 caption="(登記)">
+ <article37 caption="(外国法人の登記)">
+ <article38 caption="削除">
+ <article39 caption="削除">
+ <article40 caption="削除">
+ <article41 caption="削除">
+ <article42 caption="削除">
+ <article43 caption="削除">
- <article44 caption="削除">
- <old_article44_until2006 caption="(法人の不法行為能力等)">
- <paragraph1 mycaption="[理事等の不法行為の法人の担保責任]">
  <text>①法人は、理事その他の代理人がその職務を行うについて他人に加えた損害を賠償する責任を負う。</text>
</paragraph1>
- <paragraph2 mycaption="[理事等の連帯責任]">
  <text>②法人の目的の範囲を超える行為によって他人に損害を加えたときは、その行為に係る事項の決議に賛成した社員及び理事並びにその決議を履行した理事その他の代理人は、連帯してその損害を賠償する責任を負う。</text>
</paragraph2>
<!-- → 一般法人法78条(代表者の行為についての損害賠償責任)、117条(役員等の第三者に対する損害賠償責任)、118条(役員等の連帯責任)。その他関連規定として、一般法人法23条～26条(設立時社員等の責任)、111条～116条(役員等の一般社団法人に対する損害賠償責任)、166条～169条(一般財団法人の設立者等の責任)、198条(一般財団法人の役員等の一般財団法人に対する損害賠償責任)参照。-->
</old_article44_until2006>
</article44>
+ <article45 caption="削除">
```

削除条文は何で、
どこへ行ったの
か？

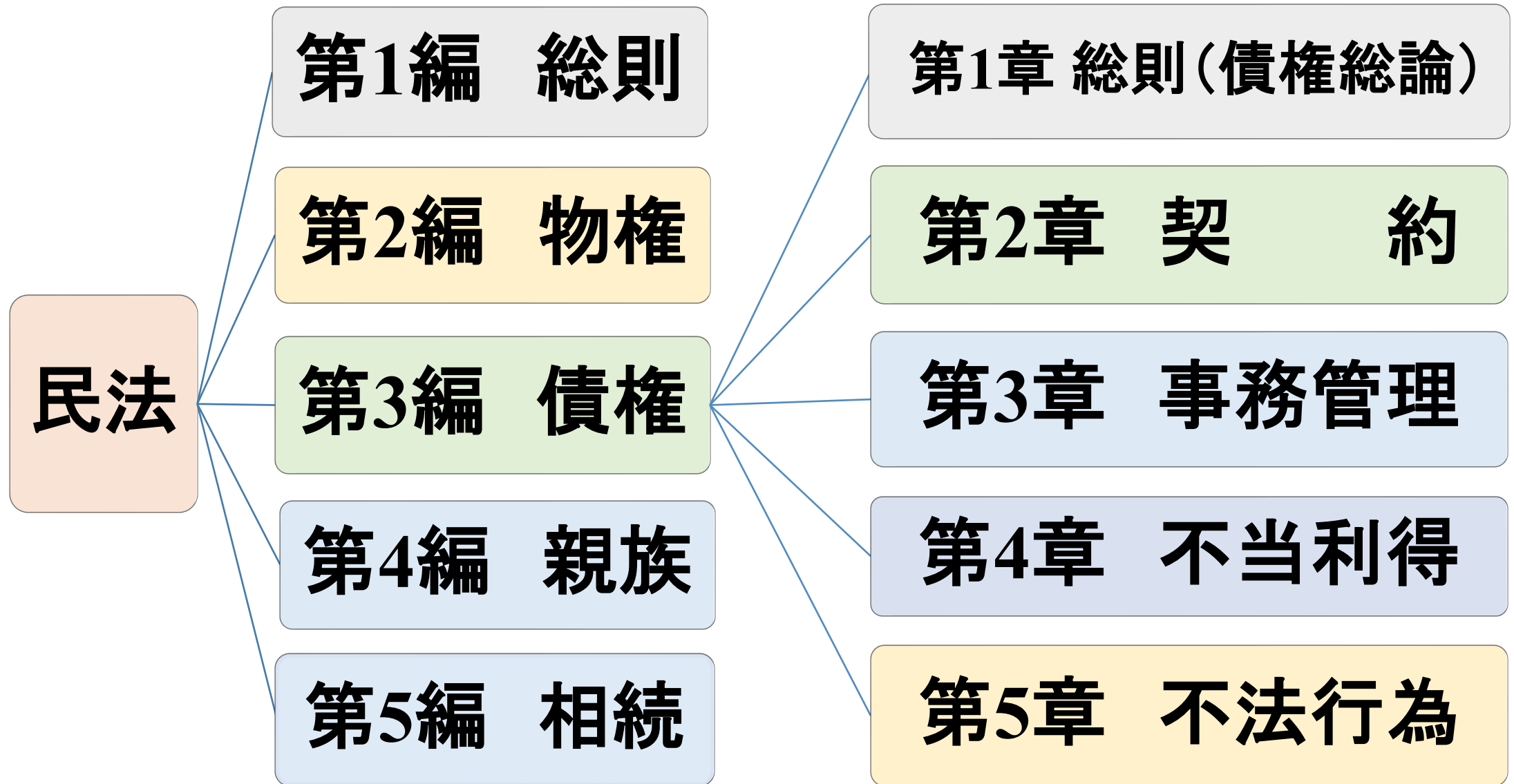
民法の体系をXMLで表現する(5/5)

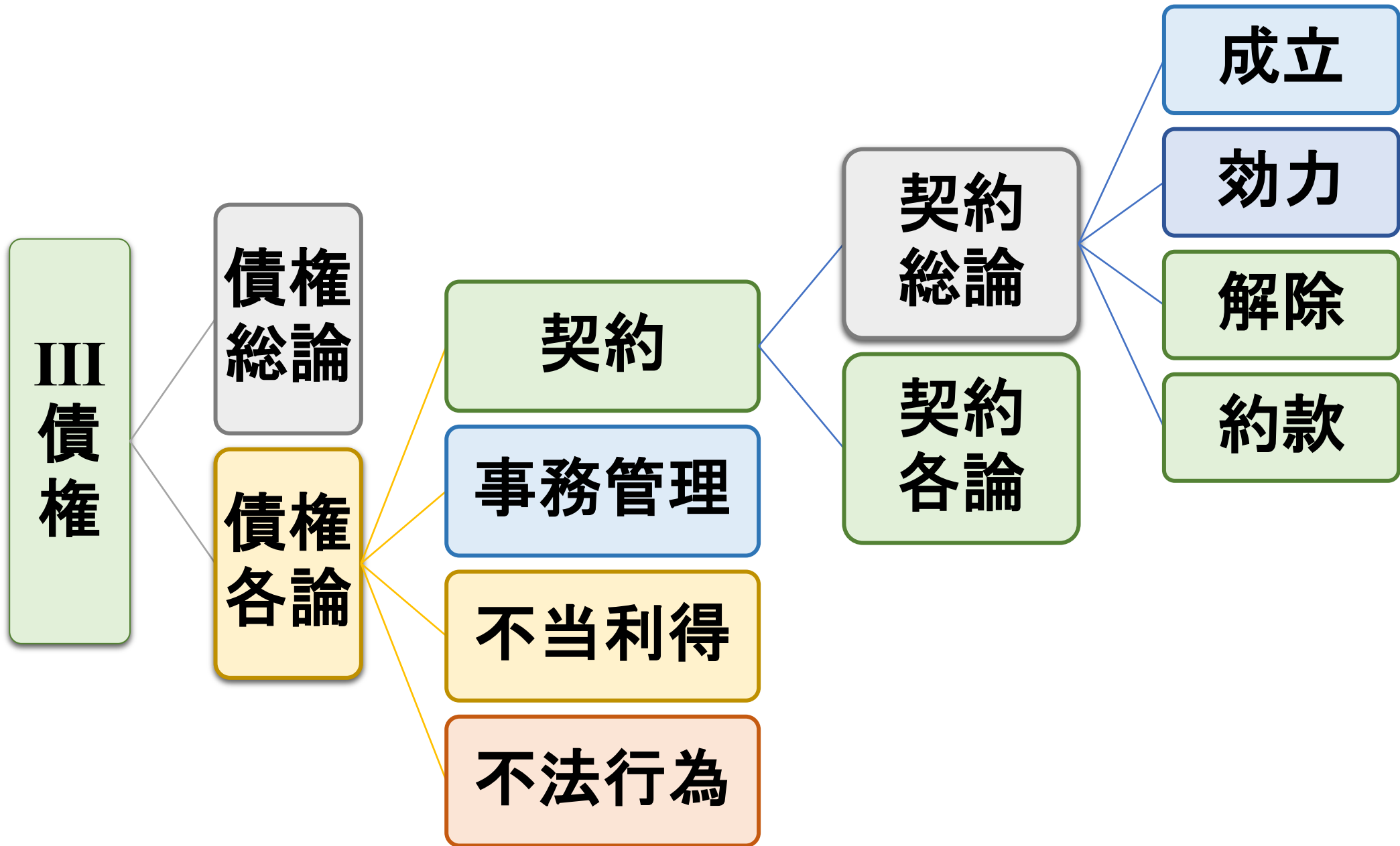
```
<?xml version="1.0"?>
- <CivilCodeOfJapan>
  - <book1 title="総則">
    + <chapter1 title="通則" mytitle="[民法通則]">
  - <mychapter2 mytitle="[私権の主体]">
    + <chapter2 title="人" mytitle="[自然人]">
    + <chapter3 title="法人">
  </mychapter2>
  - <mychapter3 mytitle="[私権の客体]">
    + <chapter4 title="物">
  </mychapter3>
  - <mychapter4 mytitle="[私権の変動]">
    - <mysection1 mytitle="[意思表示による私権の変動]">
      + <chapter5 title="法律行為">
    </mysection1>
    - <mysection2 mytitle="[時間経過による私権の変動]">
      + <chapter6 title="期間の計算">
      + <chapter7 title="時効">
    </mysection2>
  </mychapter4>
</book1>
+ <book2 title="物権">
+ <book3 title="債権">
+ <book4 title="親族">
+ <book5 title="相続">
</CivilCodeOfJapan>

+ <mychapter3 mytitle="[私権の客体]">
- <mychapter4 mytitle="[私権の変動]">
  - <mysection1 mytitle="[意思表示による私権の変動]">
  - <chapter5 title="法律行為">
    - <section1 title="総則">
      + <article90 caption="(公序良俗)">
      - <article91 caption="(任意規定と異なる意思表示)">
        <text>法律行為の当事者が法令中の公の秩序に関しない規定と異なる意思を表示したときは、その意思に従う。</text>
      - <mycomment1 heading="[意義]">
        <mynote>この規定は、債権法改正によって従来の民法521条(承諾の期間の定めのある申込み)が、新民法521条(契約の締結及び内容の自由)として登場するまでは、実質的な「契約自由」の規定として重要な意味を有していた。現在でも、私的自治を認める規定として依然として重要な意義を有している。</mynote>
      </mycomment1>
      - <mycomment2 heading="[歴史・契約自由による私的自治の源泉]">
        <mynote>この条文の起源は、旧民法財産編第327条第1項(適法に為したる合意は当事者の間に於て法律に同じき効力を有す)を通じて、フランス民法典1103条(改正前1134条1項)の「適法に成立した契約は、その契約を成立させた当事者間で法律に代わる(Les contrats légalement formés tiennent de la loi à ceux qui les ont faits.)」に遡る。</mynote>
      </mycomment2>
      - <mycomment3 heading="[濫用による弊害とその対策]">
        <mynote>もともと、この条文(民法91条(任意規定と異なる意思表示))は、経済的な強者によって悪用される危険性をはらんでいる。その典型例が、不当契約条項(事業者には有利な約款)の濫用によって、民法の合理的な任意規定を機能不全に陥らせ、消費者全体に莫大な損害を生じさせるというものであった。このような弊害を改めるために生まれたのが、2000年に成立した消費者契約法第10条(消費者の利益を一方的に害する条項の無効)であり、2017年の債権法改正によって規定された民法548条の2第2項(相手方の利益を一方的に害する定型約款の無効)もその流れの中にあるといえよう。</mynote>
      </mycomment3>
    </section1>
  </chapter5>
</mysection1>
</chapter5>
</mychapter4>
</article91>
```

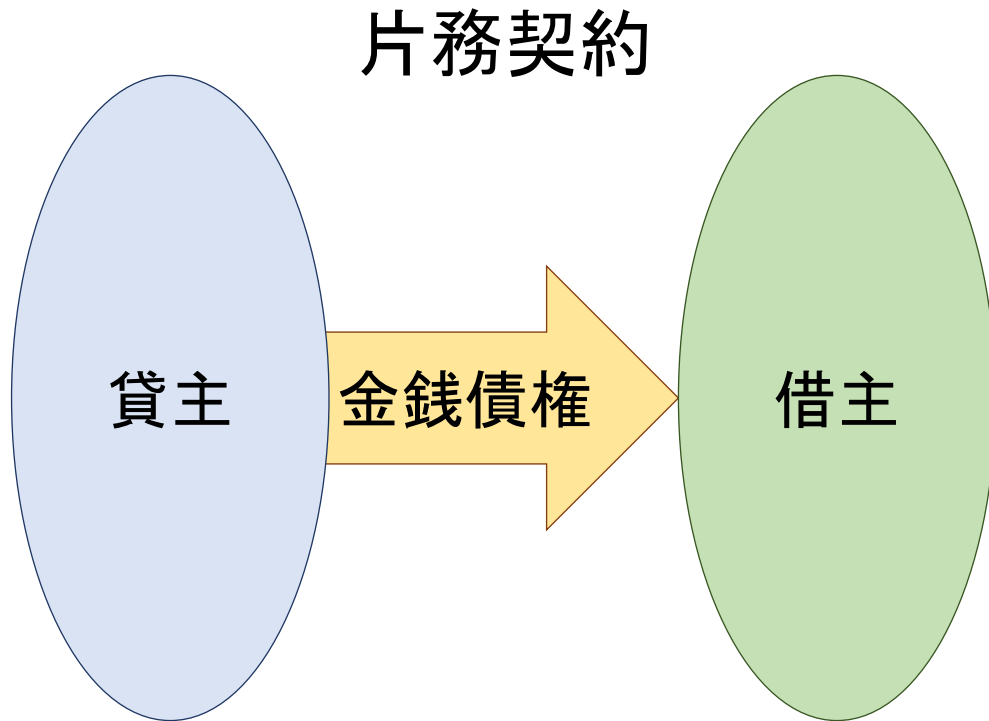
学説による
解説を書き
込むことも
できる。

契約総論の全体像





債権総論の典型例



契約総論の典型例

